

高知リハ

学校法人高知学園 高知リハビリテーション学院
学校法人高知学園 高知リハビリテーション専門職大学

キャンパス通信

02

2020年4月1日発行



よさこい祭り2016



平成28年度 入学式





卒業にあたって 贈る言葉

高知リハビリテーション学院 学院長 大倉 三洋
Kochi Rehabilitation Institute
—Okura Mitsuhiro—

保護者の皆様には、ますますご清栄のことと拝察いたします。また平素は学院、大学の教育・運営に関しまして、温かいご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

令和元年度 高知リハビリテーション学院の卒業式が新型コロナウイルス感染症の関係で文部科学省の指導もあり、最終的に中止ということになり大変残念でなりません。

しかし令和元年度、理学療法学科 第 50 期生 64 名、作業療法学科 第 24 期生 38 名、言語療法学科 第 20 期生 27 名の皆さんを送り出すことができましたことを大変うれしく思いますとともに、卒業生の皆さんをこれまで見守り支えてこられました保護者の皆様にも教職員一同心よりお祝いを申し上げます。

卒業式の告辞に書かせていただきましたように、卒業生の皆様はこの 4 年間、高知リハビリテーション学院の学生として、日々の授業や臨床実習、卒業研究を通してそれぞれの専門領域の基礎知識や技術といった専門力を学ぶとともにクラブ活動やよさこい踊り、学院祭、またボランティア活動などの課外活動を通して心豊かな人間性を高めてまいりました。

卒業式は英語で「Commencement」と言い「新たな旅立ち」「新たな始まり」を意味します。皆様は高知リハビリテーション学院を卒業し、社会人として、またセラピストとして新たな人生の第一歩を踏み出す訳であります。そして障害のある方、病気で悩んでいる方、介護を必要としている方々に治療や指導、自立支援を行う専門職、プロとして関わりを持つこととなります。そのためには常に

「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士」の専門性とは何かということを考え、自分自身が何をしなければならないかということを決えず自問自答しながら、これからの日々を歩んでいていただきたいと思っております。

本学院の卒業生は皆様を含めると、理学療法学科 1858 名、作業療法学科 743 名、言語療法学科 571 名、合計 3172 名と 3000 名を越えました。心強い先輩方が北は北海道から南は九州・沖縄まで全国各地で活躍しております。皆様方も卒業生の一員です。高知リハビリテーション学院の卒業生としての自覚と誇りを持って頑張っていたいただきたいと思います。学院の評価は卒業生の活躍によって左右されます。学院・リハ大学発展のためにも卒業生の皆様が、目的意識と向上心を持ち、利用者本位の自立支援まで考えられる能力と思いやり、共生の心を持つ心豊かなセラピストとして精進され、自己実現を目指し、社会に貢献されますことを期待しております。

皆様と高知リハビリテーション学院との絆は一生であり、学院はどのような場合にも卒業生の皆様に開かれ、皆様の成長を見守っていることを忘れないでください。

高知リハビリテーション学院は皆様の古里です。そして卒業生は高知リハビリテーション学院の宝です。

学生生活を振り返って



令和元年度卒業生 言語療法学科 小松 舞果

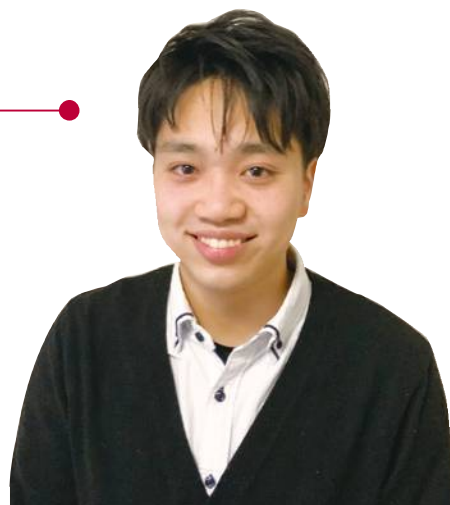
4年間を改めて振り返ると、あっという間のこのように感じます。入学当初はこれからの学校生活や勉強のことについて多くの不安を抱いていました。しかし、そのような不安もすぐになくなりました。仲間と協力して行った学校行事や、助け合いながら乗り越えたテスト勉強、日々過ごした何気ない時間はどれもいい思い出です。また3、4年次の臨床実習では座学では学べない多くのことを教えて頂きました。バイザーの先生方のようになりたいという思いは、実習後、国家試験勉強の原動力となりました。この4年間、学院で有意義に過ごせたことは先生方、家族、仲間が支えてくれたおかげだと思っています。卒業後は各々の職場でセラピストとして働くことになり、今まで以上に大変なこともあるかと思いますが、これまで支えてくれた方々に感謝の気持ちを忘れず、学院で学んだことを活かしていきたいと思っています。

令和元年度卒業生 特別表彰者

- 全国リハビリテーション学校協会 優秀賞
理学療法学科 藤田 龍太郎
作業療法学科 樋口 佳音
言語療法学科 浅岡 拓希
- 日本理学療法士協会 学業優秀賞
有岡 琴
- 日本作業療法士協会 優秀学生賞
下元 朝美
- 日本言語聴覚士協会 会長賞
川邊 智加
- 学院長表彰
理学療法学科 中山 雄太・西村 涼
作業療法学科 竹中 梨緒
言語療法学科 小松 舞果

令和元年度卒業生 理学療法学科 藤田 龍太郎

学院での4年間は長いようで短く、あっという間に過ぎていきました。たくさんの経験、出会いがあり、よさこいや学院祭など、様々な活動を通して、クラスや学年の仲間と協力し、やり遂げていくことで手にした絆や達成感は今でも心に残っています。臨床実習や4年間の集大成である国家試験に向けての勉強では、多くの困難にぶつかりました。その困難に対して、学年の仲間たちと共に、互いに支え合い、教えあい、手を取りながら勉強した日々は、大変ではありましたが、とても充実した時間でした。お世話になった実習先の先生方や患者様、学院の先生方、学院の仲間、いろいろな人との出会いを通して大きく成長していくことが出来ました。この4年間の学院での生活で得た繋がりは僕の宝物です。また、家族や友人たち、支えてくださった方々には本当に感謝しています。卒業後は学院で学んだことを心に刻み、理学療法士として歩んでいきたいと思っています。



令和元年度卒業生 作業療法学科 下元 朝美

この4年間、クラスの皆と涙が出るくらい大笑いをしたり、時には辛い事もありましたが、そのどれもが無駄では無く、また一つ自分を成長させてくれた体験だったと思います。臨床実習では、自分の能力を突きつけられたかのように、悔しい気持ちが湧き出しましたが、患者さんに関わる事で多くの事を学ぶ事が出来ました。国家試験勉強は、心が折れそうになる事もありましたが、大丈夫だと互いに支え合いながら、同じ夢に向かって頑張る仲間の存在が私の励みになりました。辛い時、傍で優しく話を聞いてくれる友達が居て、国家試験に向けて山のように資料をかき集め、私達のためにいつも一生懸命でいてくれた先生方が居て、この学院を4年間通わせてくれ、どんな時も応援してくれた家族、私は沢山の人に感謝の気持ちで溢れています。卒業後も、4年間で学んだ事を含め、初心を忘れず、日々学び続け、患者さんに信頼される作業療法士を目指して努力し続けたいと想います。



教員紹介



玉井 健 たまい けん
言語聴覚学専攻 教授

出身は岡山市です。大学での専攻は経済学でしたが米国留学を機に英語を教えたいと思うようになり高校の英語教師になりました。神戸で15年間教えましたが、30代での米国大学院留学を機に英語教育への関心に目覚め、何本かの研究論文を書いて大学に移りました。皮切りは四国学院大学で神戸松蔭女子学院短期大学、神戸市外国語大学を経て本学に着任しました。40代はシャドーイングを中心とするリスニング指導法研究、50代からはリフレクティブ・プラクティスというふり返りをを用いた教師教育の実践研究をしてきました。現場の教師がよりよい実践者として成長するための支援についての研究です。本学では改めて英語教師に戻って頑張りたいと思います。学生たちに聞くと英語は嫌いだけど本当はできるようになりたいという人がとても多いのに驚きます。中学・高校で文法や単語の暗記によほど苦しんだのでしょうか。私も一人の実践者として皆さんの英語学習に何ができるのかを考えつつ試行錯誤しているところです。遠慮なくご相談ください。

高知市生まれの団塊の世代です。高校卒業以来52年経りに故郷に戻って来ました。高知をもっと歩き、見、飲み、食べ、知りたいと思っています。東工大では制御工学を学び、富士通の研究所ではプログラミング言語や計算機代数(数式処理)を中心に情報系の技術を研究していました。富士通で1994年に公開した国産数式処理システムRisa/Asirは神戸大学に引き継がれ、主に数学研究に世界中で利用されています。趣味は「ことば」。記号(音、文字)と意味(観念・行為)の関係性に興味があります。趣味と言え、以前は単車とalgorithm、CPUのスピード狂でしたが、最近では予算がつかず燃費重視のエコ暮らしになりました。リハビリテーションも世代の違う学生さん達も、私には未知との遭遇。一緒に学んで行きたいと思っています。



竹島 卓 たけしま たく
言語聴覚学専攻 教授



辻 博明 つじ ひろあき
作業療法学専攻 教授

私の研究のスタートは、スポーツ医学の研究成果を心疾患や中枢神経麻痺(片麻痺)の運動療法に応用する研究でした。その後、人の出会いと環境に恵まれ、計測機器やシューズや福祉機器などの開発、健康増進システムや企業における安全管理システムの構築、さらには新材料の開発など、多岐にわたる分野に関わることができました。

毛色が変わったところでは日本オリンピック委員会強化スタッフ(トレーニングドクター)や近代五種・バイアスロン競技連合のスポーツ医科学委員長なども経験し、実業団野球チームを都市対抗の常連にすることを請け負ったり、今年で32回となる岡山吉備高原車いすふれあいロードレース大会を立ち上げたりしました。

2013年3月に岡山県立大学情報工学部教授で定年退職を迎え、名誉教授の称号を授与されました。その後は大学には勤めず、高齢者が安心して暮らせる地域づくりに取り組みながら、愛知県の企業から請われて、新事業開発のコンサルティングをしていました。

昨年4月に本学が専門職大学第1号として開学し、新しい形態の大学づくりに私の経験がすこしでも役立てばと思い、新たな夢を抱いて土佐にやってきました。よろしく願います。



上松 智幸 うえまつ ともまさ
言語療法学科 講師

高知リハビリテーション学院言語療法学科10期生として卒業し、高知市内の病院で言語聴覚士として勤務しておりました。9年間、2歳の子どもから100歳を過ぎたご年配の方々に言語療法を実施し、その後、母校へ戻って参りました。

病院で勤務している間、予想に反して回復がみられない症状に対して、文献などを読み、その原因について思考を繰り返していました。そんな中、新しい知識を得ることへの喜び、思考し問題を解決する喜びを感じ、「知識欲」という欲求を強く実感しました(実感が遅く、大変お恥ずかしいですが)。

この教育の場で、学生の「知識欲」をかき立てられるような授業展開を心がけ、一緒に学んでいきたいと考えています。

私は、高知リハビリテーション専門職大学の理学療法学専攻1期生担任を重島准教授とご一緒にさせてもらっています。授業は、2年生で理学療法セミナーⅡ(PBL)、理学療法測定実習Ⅰ・Ⅱ(関節の角度、感覚、病的反射などの測定)、物理療法学実習(物理療法機器の演習)、3年生で機能代償支援理学療法実習(福祉用具などの学習)などを担当します。研究活動としては、現在、がんのリハビリテーションに関して主に実施しています。内容としては、乳がん、肺がん、骨転移、緩和ケア患者などを対象としたリハビリテーションの有用性や効果を中心に研究を行い、その成果は、国内外に向けて発信しています。

私がこれまでの経験を踏まえて、学生の皆さんに伝えたいこととしては、地道に努力すること、何事にも嘘をつかずに真摯に向き合うこと、そして先のことを考え行動することが大事だと思います。

一緒に勉強していきましょう。



明崎 禎輝 あけさき よしてる
理学療法学専攻 准教授

贈る言葉



理学療法学科 補導主任 平賀 康嗣

第55回理学療法士・作業療法士国家試験が終わり、理学療法学科49期生64名は卒業を迎えることとなりました。本当なら卒業式・謝恩会を皆さんと過ごす事ができれば良かったのですが、新型コロナウイルス予防によって中止となり、どちらも叶うことができませんでした。この騒動が収束してどこかで皆さんと祝うことができることを楽しみにしています。

この学年は、真面目な学生がリーダーシップを取れば全体的に真面目になることができる学年であり、相手の気持ちになって考えることができる極めて理学療法士に適した長所を持つ学生が多い学年だと思います(特に3年生から)。今後はこの長所を生かしてみんなに愛される理学療法士になってください。

最後になりましたが、これまで絶えず気遣いながら支えてくださった、ご家族を始めとする周囲の方々に心より感謝申し上げます。

作業療法学科第24期生38名が卒業を迎えました。入学当初から高校生気分が払拭できず、4年次の臨床実習直前ですら清々しいほど楽観的だったように思います。しかし、その様な中でも少しずつ自律に向けて努力する姿を、一番近くで見せていただいたことには感謝しています。

作業療法士は、刻々と変化する社会情勢の中で、専門職として果たすべき役割が求められています。社会の一員になれば、辛く意に沿わない仕事もたくさんあります。しかし、その仕事には、あなた方を磨き、強くする力が秘められています。挑戦と感謝を忘れず、成長の機会を自ら選択し、自分らしく頑張してほしいと思います。

最後になりますが、ご家族をはじめとする、学生たちを支えていただいた全ての方々に、心より感謝申し上げます。



作業療法学科 補導主任 金久 雅史

先日、言語療法学科20期生が卒業を迎えました。振り返るとこの4年間のことが色々と思い出されます。入学当初に感じたことは、個性豊かな学生がたくさんという印象でした。それは卒業を迎えた今でも変わっていません。そんな個性豊かな学生達に囲まれ、私自身も刺激を受け、学ばされることが多くありました。学生達への感謝の気持ちを覚えずにはいられません。これから、社会人として言語聴覚士として臨床の場へと旅立っていきます。それぞれの個性を生かしながら、患者さんのために日々研鑽し頑張りたいと思います。今後、色々な悩みもあるかと思いますが、自分で考えることも勿論大切ですが、困った際には(そうでなくても)学校を訪れて下さい。いつでもお待ちしております。



言語療法学科 補導主任 櫻木 理恵

学生のクラブ活動



吹奏楽部

吹奏楽部は、学院祭・大学祭や卒業式、施設等で演奏をしています。現在、部員は2年生2名、3年生1名と少人数ですが、卒業生などの学外の方や、司会・ダンスなどで盛り上げてくれる盛り上げ隊と一緒に、20名前後で舞台上に立っています。

私は、演奏を聞いてくれる方達が楽しんでくれるのを見ると、とても嬉しく思います。また、卒業生など社会人の方との新たな人間関係ができ、勉強になることもたくさんあります。

少人数だからこそ、より仲良く、楽しく演奏ができます。楽器の経験問わず、盛り上げ隊も含めて、どんな方でも大歓迎です。興味がある方は一度、慰問演奏に行ってみませんか？ぜひ私たちと一緒に活動しましょう！

吹奏楽部 部長 言語療法学科 2年 濱田 花乃子



令和元年度 クラブ一覧表

	クラブ名
1	野球部
2	フットサル部
3	バレーボール部
4	バスケットボール部
5	バドミントン部
6	剣道部
7	吹奏楽部
8	軽音楽部
9	ツーリング部
10	ハンドボール部

各クラブの活動スケジュール等は、講堂入口前にある「クラブ連絡用掲示板」を見てください

土佐市就学奨励費について（給付型）

土佐市在住（土佐市の賃貸宿舎の居住者も含みます）の本学院・本学の学生に対して、前期、後期それぞれ3万円の就学奨励費が交付されます。説明会（6月予定）を開きますので、該当する学生は忘れずに参加してください。

土佐市人づくり奨学生（給付型）

土佐市では土佐市出身（保護者が土佐市在住）の学生を対象にした土佐市人づくり奨学生（給付型）制度が設けられています。月額1万円の奨学金が給付される制度です。（特別な場合を除き、給付された奨学金は返還する必要はありません。）詳しくは事務室までご連絡ください。



全国で活躍する 卒業生シリーズ

Vol.29

公立大学法人 埼玉県立大学保健医療福祉学部理学療法学科 准教授 井上 和久

「将来を見据えた志向」

私は、高知リハビリテーション学院を平成7年3月(1995年、24期生)に卒業し、もう少しで25年が経ちます。卒業してから25年も経っていますが、私にとってはまだそこまで経過しているような感じがしておりません。在学中を振り返ると、よさこい祭りの実行委員長の役割を担った思い出が強く印象に残っています。現在はどのように決められているのかわかりませんが、当時は高知高等学校出身者のなかから選出するようにと上級生(2年生)から依頼があり、高知高等学校出身の女性3名男性3名のなかから私が役割を担うことになったと思います。初めは1年生で右も左も分からない状況で先輩からいろいろな引継ぎを矢継ぎ早に受け、よさこい祭り終了までめまぐるしい日々を送るキャンパスライフでした。今思い起こせば非常に良い経験となりました。今の私があるのは、学生時代にこのような活動した多くの経験が元になっています。これを読まれている学生の皆さん、受動的でもいろいろな経験を是非積んでください。可能であれば能動的に自ら様々な経験を培っていただきたいと思います。そういった経験が何かしら将来の活動に役に立つことが出てくると思います。

さて、「将来を見据えた志向」について、お伝えさせていただきます。私は優等生ではなかったため、在学中はいろいろな迷惑をかけた学生だったようです(あまり自

覚していませんでした)。そんな私でも4年生の臨床実習で3期目の実習地での経験が今の職場にいる最大の要因であると思います。実習当時は、実習指導者の先生(現在同じ職場で働いております)が大学院に通っており、理学療法士になってからも研究活動をしている様子に憧

れ、私も研究活動をしたいと思い、就職はせずに大学院の受験を考え両親に相談しましたが反対されました。それでも大学院にいきたいという志向から大学院にしやすい場所に就職しようと同東圏に就職をしました。実際、大学院に入学できたのは卒業後10年経過してからになりますが、幸い大学院を卒業し、学位(博士:医学)を取得でき、現在の職場で大学院教育にも関わることが出来ております。現在志向できていない方もおられるかもしれませんが、この先1・3・5・10・20年後という自分の将来を見据えて志向し、いろいろなことにチャレンジしながら失敗・成功体験を積み重ね、卒業後は社会に貢献できる人間として成長されることを期待しております。



図書館サポーターズ 活動始まる!!

図書館サポーターズとは、図書館が好き!図書館でこんなことがしたい!図書館をみんなに好きになってもらいたい!と思っているメンバーの集まりです。モットーは、学生の皆さんが図書館をもっと楽しく利用できるようにと考え、活動していくこと。

募集の結果、理学療法学専攻3名、作業療法学専攻4名、言語聴覚学専攻3名の計10名のメンバーが集まりました。11月から活動が始まり、月一回のペースでサポーターズ会を開き、どのような取り組みをするかを話し合っています。

第一弾として、魅力的な本棚作りをしようということになり、

①先生方に聞いた学習に役立つおすすめの本(教科書以外でおすすめの本を教えてくださいと、先生方にアンケートを実施)

②音楽×本(音楽からイメージされる本の紹介)

この2つのテーマで展示をおこなっています。初めての企画でしたが、POP作りと飾り付け、こだわりの本の紹介などサポーターズの熱意あふれる展示となっています。

これらからも、学生発信の意見を取り入れ、利用したくなる図書館づくりを目指していきたいと考えています。第二弾企画もどうぞ楽しみに!





**令和2年度 オープン
キャンパス日程**

第1回 令和2年 6月 7日(日)
 第2回 令和2年 7月12日(日)
 第3回 令和2年 8月15日(土)
 第4回 令和2年 8月23日(日)
 第5回 令和2年 10月25日(日)
 第6回 令和3年 3月20日(土)

リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 (入学定員 150名)

PT 理学療法学専攻
(定員 70名)

理学療法士とは、病気や障がいなどで後遺症を持つ方に、運動療法および温熱・電気などの物理療法を用いて、身体機能や能力の改善を図る専門職(国家資格)です。具体的には歩行などの基本動作や日常生活活動を改善するためのさまざまな治療・援助を中心に、福祉用具の選定や住宅改修、環境調整、在宅ケアなども行っています。

OT 作業療法学専攻
(定員 40名)

作業療法士とは、こころや身体に障がいのある方や予測される方に対し、主体的な活動ができるよう、さまざまな作業活動を用いて治療・援助する専門職(国家資格)です。作業療法を通して、運動・精神機能、日常生活動作能力、社会的適応能力などの治療・援助を行っています。

ST 言語聴覚学専攻
(定員 40名)

言語聴覚士とは、「コミュニケーション」、あるいは「食べる」(嚥下・咀嚼)ことに問題がある方に対し、必要に応じて訓練・指導・助言その他の援助を行い、自分らしい生活を構築できるよう支援していく専門職(国家資格)です。聞こえの障がいや脳機能に障がいのある方に対するの検査や回復訓練なども行っています。



学校法人 高知学園 高知リハビリテーション専門職大学
 〒781-1102 高知県土佐市高岡町乙1139-3 E-mail kochi-reha@kochi-reha.ac.jp
TEL.088-850-2311 FAX.088-850-2323

詳しい情報はこちらにアクセス

【学校法人 高知学園】 高知学園大学／高知学園短期大学／高知中学高等学校／高知小学校／高知学園短期大学附属高知幼稚園／高知リハビリテーション学院



**スクールバスの
運行について**

授業の開始(終了)時間に合わせて、JRいの駅⇄天王ニュータウン⇄本学院・本学間を1日6往復、スクールバスを運行(無料)しています。いの駅発の第1便は8時10分です。運行ダイヤは学内の掲示板やホームページに掲載しています。また、学院祭・大学祭などの行事の際には、臨時便も運行しています。

**土佐市
ドラゴンバスに
ついて**

土佐市が運行するドラゴンバスが本学院・本学院の駅間を1日2往復(4便)運行しています。本学院・本学院の学生が利用する場合は、事務室で発行している、運賃無料となる乗車券をご利用ください。